

平成 29 年度 JERT 主催救急撮影講習会(福島)参加報告

いわき市立総合磐城共立病院 医療技術部 中央放射線室 檜村 康弘

平成 29 年 8 月 20 日、福島県立医科大学病院にて開催された救急撮影講習会「救急撮影技術のすゝめ」を受講して来た。

私自身、第 1 回の東京開催から何度も他講習会へ足を運び、色々な講義、実習を受ける中で交流の輪を広げた方々の講演と言う事もあり、聴講できる事が楽しみであった。

今回の内容は、救急撮影における基礎教養と救急撮影に必要な撮影技術学、特別講演であった。急変時の対応としての必要な技術から、撮影技術での時間短縮の重要性、実際の救命現場の話へと、とても流れが良く、初学者からベテランまで学べる充実した内容であった。

基礎教養では、フィジカルアセスメント、放射線防護、造影剤副作用と基礎教養とは思えないほど、最新の情報が盛り込まれた内容を学んだ。特に DRR に関して、当院ではどう救急に取り入れていくか？について今後の検討課題であると感じた。

救急撮影に必要な撮影技術学では、撮影時間の大切さ、先を見据えた技師の行動、知識と技量、画像がどう出来るのか？利用するのか？こちらも最新の情報が盛り込まれた内容となった。

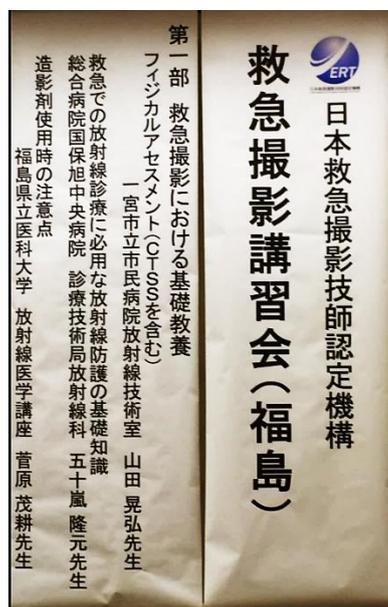
特に、時間短縮の大切さは、総てのモダリティで強調され、適切な画像提供を前提にさらに一歩進んだ知識と技術、技師も患者の命に貢献し、人生を左右してしまう事を学び、自分自身にもう一度、日頃の自分の行動を顧みるには良い機会となる内容であった。救急撮影のバックボード下での IG (Intelligent Grid) を使ったポータブルの画像への影響などの知識、外傷の IVR を見据えた下準備は、たとえ治療が行われなかったとしても、気持ちに余裕をもって業務を遂行出来るので、取り入れていきたいと感じた。

特別講演においては、ドクターヘリからドクターカー、更には救急処置の緊迫した映像を見ながら、如何に防ぎえる死について救命するかを熱く語って頂いた。救命率を出す事で分かり安く、防げなかった死も含め、救急の未来への希望と時代の変化を垣間見た講演であった。

今回の講義を通して、撮影において統一的な考え方、捉え方が出来たと思う。この日を期に是非、救急の業務に興味を持って、積極的に関わっていきたいと考える。

最後に、このような貴重な講習会を開いてくださいました、機構の方々、スタッフの方々

に感謝申し上げ、筆を置きます。「皆～、救急業務、好きか～」 「お～つつ」。



今回の演目：幅広い講義内容で、沢山の情報収集が出来た。



メンバー：講義終了後の満面の笑み。皆さん、お疲れ様でした。



講義風景：皆、顔が真剣。

どっぷり 救急に浸かった。お疲れ様でした。